



『よだかの星』のヨタカを保護



口を大きく開けて餌を丸飲みするヨタカ



春の開園に向けて、現在、チンパンジーの森とサル舎のリフォーム工事が続いています。キタキツネとユキウサギの新施設の工事も順調です。

さて、30年ほど前、奇妙な姿の野鳥を保護しました。幼鳥のように柔らかくて異常に大きく開くくちばし、大きな目、きゃしゃで小さな足、小型猛禽のような羽色、うなるような鳴き声…。インターネットがない時代でしたから、図鑑や雑誌などを読みあさり、この鳥が宮沢賢治の『よだかの星』のヨタカであることを突き止めました。子供の頃に教科書で読んで、強く記憶に残っていたあの鳥が目の前にいる！しかも驚くほど正確な描写だったことに感動しました。

ヨタカは、飛びながら口を大きく開き、口の中に飛び込んだ昆虫をそのまま丸飲みします。くちばしに、はさむ機能があるとは思えず、なんとも不思議な鳥です。保護した野鳥の世

話で一番難しいのは餌付けです。強制的に食べさせることから始めるのですが、これは鳥にとって強いストレスです。

これまでに何度か保護したヨタカは、餌を口元を持って行くと口を開け、口に入れると食べるまでにはなりませんが、置いてある餌は食べません。生きている昆虫でも、地面を動くものには見向きもしません。くちばしでつまみ上げるとい行動をしないのです。どの個体も複雑骨折などで状態が悪く、長くは生きませんでした。

一昨年の秋、翼を骨折したヨタカが約20年ぶりに保護されました。事故後すぐに保護されたので衰弱は見られませんでした。再び飛べる状態には戻れませんが、口元に餌を持って行くと大きな口を開け、喉元に餌を落とすと飲み込むようになりしました。1日3回、数人のスタッフで餌を与えています。採食時以外はほぼ動かず、木の枝のようです。ヨタカは、あの小説のなんと切ないヨタカではなく、森の分身のように凜とした存在に見えます。



旭山ピックアップ

市民の企画提案による協働のまちづくり事業

フォーラム「繋ぎたい命があります」



市民団体「繋ぐのは命プロジェクト」と旭山動物園の協働事業として、平成29年から「ボルネオへの恩返しプロジェクト」を市民に広く普及・啓発しています。3年目となる今回は、本園のポスターなどを手掛けている写真家・映画監督の今津秀邦さんの作品鑑賞や、ボルネオ保全プロジェクトで連携している園長と関係者のプレゼンテーション、ボルネオ保全WAONカードの紹介などを行います。
日 1/26(日) 10:00~15:00・CoCoDe (宮前1の3)

冬期開園期間 4/7(火)まで 10:30~15:30 (入園は15:00まで)



旭山動物園をもっと楽しむ

とことん旭山

内 日 ●開園前一人占め=2/15(土)、3/7(土) 9:25から
●動物園裏側探検 旧キリン舎・カバ舎・調理棟編=2/22(土) 11:00から
定 各20人
申 電話で各日3週間前9:00から

【詳細】旭山動物園 (東旭川町 倉沼 電36・1104)

冬の自然観察会 スノーシューをはいて冬山を散策しよう

内 飼育員と旭山公園を散策し、冬の動物の足跡や木の芽などを観察
日 2/16(日) 13:30~15:00
定 10人 (小学生以上)
申 電話で1/26(日)9:00から

旭山動物園 読書感想文コンクール作品募集

小学生を対象に、動物について書かれた本の感想文を、学校を通して1/24(金)までに応募してください。※詳細は同園HPに掲載。

旭山動物園 動物ふれあいフォトコンテスト作品募集

園内で撮影した動物の写真を、1/31(金)までに応募してください。※詳細は同園HPに掲載。